

## 2017年度 教育課程編成・実施の方針に照らした学修への取組の適切性に関する検証

FD委員会

マイステップ・リエゾンポートフォリオ「学びの姿勢ふり返り（学科／研究科専攻の教育課程編成・実施の方針）」のデータを活用した検証です。学科の教育課程編成・実施の方針については、本学ホームページの「教育方針」（下記のURL）をご覧ください。

<https://www.tfu.ac.jp/aboutus/policy/index.html>

学科・研究科専攻	検証の結果
社会福祉学科	<p>(1)「学修を通して、他者を尊重する態度を身につけようと努めている」、(2)「利用者の多角的理解に努められるような学修をしている」、(3)「現代の福祉環境を多角的・多面的に理解できるような学修をしている」、(4)「ライフステージに応じた生活課題の発見と解決が主体的にできるようになるための学修をしている」、(5)「自分の将来像を意識した履修コースを選択している」について5段階で学生に評定を求め、1～5点へと得点化した。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・分析対象について 1年生 197名（回答率：41.4%）、2年生 61名（14.7%）、3年生 39名（8.8%）、4年生 60名（15.9%）であった。</li><li>・平均点と検証結果について それぞれの項目について学年ごとの平均点を求めた（図1）。項目（3）及び（4）については3年生まで2点代であった。しかし、いずれの項目も1年生から4年生にかけて平均点が高くなっており、4年生では項目（1）が4点代、（2）～（5）では3点代後半であった。平均点の低かった項目（3）・（4）に関連する自由記述として、学ぶ前より多角的に見られるようになったが実践の場や書籍などで理解を深めることができていない（1年生）、物事に対して限定的な捉え方しかまだできていないと思われるので、視野を広げられるよう読書などをして努力していきたい（1年生）利用者理解と福祉環境についての理解は深まったがライフステージに応じた課題についてまだ説明できるほど学びが深まっていない（3年生）から評価が低くなることが述べられていた。</li></ul> <p>学年を追うごとの平均点の上昇、全項目の平均点が3点代後半～4点代になることなどから、学生の学びの姿勢の評価に基づき、カリキュラムポリシー構成の意図が反映された適切な取り組みがなされていると考えられる。</p>

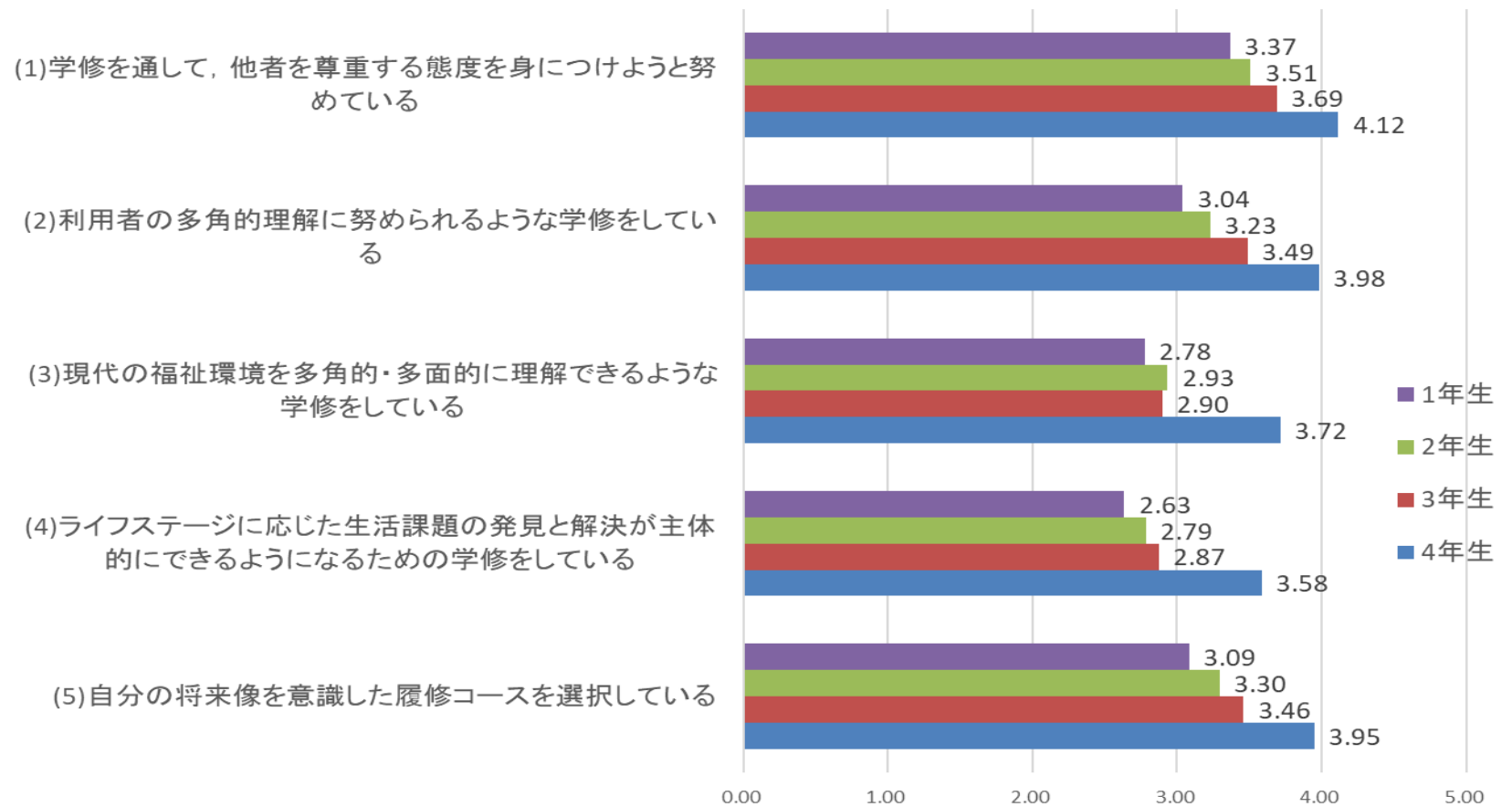


図1 学びの姿勢振り返り